

曾屋高校が福祉施設と植樹

校内に施設の利用者を招く

秦野曾屋高校(田村幸久校長)が5月21日に、平塚市の社会福祉法人進和学園(出縄明理事長)の職員や

利用者を招いて、同高校内に植樹を行った。これは「ボランティア・福祉教育」を推進する同高校が行う福祉

活動の一環で、23日に開催された第61回全国植樹祭にちなみ実施したもの。



生徒と利用者は協力しあって作業した

進和学園は、横浜国立大

この日は、同高校から職員と生徒17人が、同学園からは職員と利用者の14人が参加。生徒と施設の利用者は協力して、校内の花壇にタブ、スダジイ、アラガシなどの苗木を植樹し、縄で根元を補強した。植樹が終わったあとは交流会で互いに親睦を深めた。植樹に参加した同高校の生徒は「暑かったけど楽しく出来た。木が成長するのが楽しみ」と振り返った。

学名誉教授でもあり、植物生態学者として森林づくりを研究する宮脇昭氏が提唱する「土地本来の木による本物の森づくり」を目指し、どんぐりの実から植樹用のポット苗を栽培するプロジェクト「いのちの森づくり」を行っている。県教育委員会が福祉教育に力を入れる同高校を紹介し、両校が協力して植樹することになった。

同高校は、9月4日(土)に予定されている文化祭にも同学園を招き、第2回校内植樹を行う予定。文化祭では両校が協力し、福祉交流イベントなどの実施を予定している。